

419) 靴

小生は浦和でいつも快速電車に乗り換えているのだが、各駅停車から快速に乗り換えるには階段で地下に入ってホームを換えなければならない。ところが電車の時間によっては各駅の電車を下りるなり、階段を駆け下って、隣のホームに行かないと間に合わない。そこで毎朝 100メートル競争が繰り広げられるのである。先日も折悪しくそんな時間帯に出くわしてしまった。ところがこの日は不運にも、階段を下りたところで、隣の男ともつれて靴が脱げて飛んで行ってしまった。見ると、相棒のほうも靴が脱げて、片足で脱げた靴の方へと走り寄って、器用に靴を履くとさっさと再びダッシュして、見る見る隣のホームに消えてしまった。私は電車を一台遅らせることにして、脱げた靴を見張っていると、哀れにもラッシュの中で蹴飛ばされたり、踏みつけられたり、見るも無残な有り様である。ひとあたり人の波が収まったところで、おもむろに脱げてしまった靴の所に行って、靴を履くとこれがちよいと違和感がある。アリヤリヤ、人に踏みつけられてこんなにも変形してしまって、靴もさぞや痛かったろうなと思いつつ、よく見るとこれが我輩の右足の靴と何処かデザインが違っている。コンチクショウ！。あいつがオレの靴を履いていっちまったことに気づくのに、今回はそんなに時間はかからなかった。しかしもう手遅れであることに変わりなかった。こんなドタ靴じゃなくて、オレの靴は履きやすいイタリー製のいい靴だったんだゾ～。ギャシーヨー！